

隠居所 野田御殿の建設



野田御殿(毛利家野田別邸)
(国立国会図書館ウェブサイトより転載)

明治2年6月4日、毛利敬親は家督を元徳に譲りました。同年、敬親の隠居所として野田御殿の建設が決まり、着工します。松岡治助が棟梁をつとめました。松岡治助は山口御屋形や豊栄神社を手掛けた明治初期の代表的な大工棟梁です。しかし、敬親は明治4年3月山口藩庁内殿で亡くなり、野田御殿に居住することはなかったといえます。戦後この地に県職員住宅が建てられました。現在、跡地には山口市菜香亭があります。

活用される野田御殿

完成前に敬親が亡くなったことで、隠居所として使用されることはありませんでしたが、毛利家野田別邸として、様々な形で野田御殿は利用されます。

明治18年7月26日から9月12日まで、山陽道御巡幸があり、明治天皇は、県内に7月29日から3日間滞在されました。野田御殿は、滞在中の行在所(行幸時)に旅先に向けた仮の御所)となりました。また、明治41年4月の皇太子(大正天皇 行啓の際にも、野田御殿は皇太子の宿舎に充てられました。このとき、料亭菜香亭は供奉人の食事を配慮したことから、後日、桂太郎より掛け軸「鶴駕入鴻城 皇恩潤二州」を賜りました。

敬親の孫、毛利元昭が来山した際も、野田御殿が滞在場所となりました。明治29年の元昭夫妻の結婚披露の際にも野田御殿は挨拶や立食に度々使用されました。

元昭は毛利元徳・安子夫妻の長男として萩八丁邸に生まれ、明治30年(1897)家督を継ぎます。山口に来た際は料亭菜香亭を鼻肩にされました。好物は鯛の刺身で、相当大量に召上ったそうです。菜香亭には、元昭ら毛利家専用の食器が現在も残っています。



毛利家専用食器



桂太郎の書

物見やぐら※は、やぐらだった記憶はなく、やぐらとも思っていない。人が住んでいた。物見やぐらとされている建物は現在の営林署向かいの角にあったものとは違っています。かといって何かわからないです。調べがすすむとよいのですが。

※野田御殿の南側、現在の野田学園高校斜め前の芝生付近に物見やぐらがあったとされている。ご協力いただいた皆様、ありがとうございます。菜香亭では引き続き、野田御殿の情報を集めています。過去にお住まいだった方や何か情報をご存じの方はご協力いただけると幸いです。

講演会「藩主毛利敬親と藩政改革と野田御殿」開催



毛利博物館顧問 小山良昌氏

令和3年11月6日(土)、講演会「藩主毛利敬親 藩政改革と野田御殿」を開催しました。講師には毛利博物館顧問の小山良昌氏をお迎えしました。現在、山口市菜香亭が建つ土地は、かつて野田御殿という御殿があった場所でした。何故、山口の土地に御殿が建ったのか。何故「山口」県となったのかという話から講演会は始まりました。

敬親は文久2年(1862)に藩是を攘夷実行と決定し、文久3年(1863)には萩城内の政治堂を山口の御茶屋へ移します。そして、翌年5月から半年足らずで山口御屋形を建設し、政治の中心が山口へと移ります。そして、慶応3年の山口永住令によって、山口が防長両国の根拠地となり、山口県へと繋がってきます。その後、明治2年には、敬親の隠居所として野田御殿の建設が始まりますが、完成前に敬親は逝去。さらに明治4年の廃藩置県により元藩主は東京へ移住することとなります。その結果、野田御殿は管理人が住み、山口用達所(山口での毛利家本拠地)として利用されることとなります。

野田御殿のその後



野田御殿の跡地に建つ山口市菜香亭。歴史巡りの庭は、大殿地区の史跡を模して作られています。

野田御殿は、昭和22年に山口県へ売却され、県職員の住宅となりました。その後、昭和37〜40年にかけて、野田御殿は解体され、同じ場所に県職員住宅が四棟建設されます。県職員住宅ができた後も蔵のみ残っていましたが、平成3年に蔵も解体されました。

野田御殿の思い出

野田御殿、県職員住宅に当時住んでいた方々にご協力いただき、当時の思い出をお聞きしました。一部をご紹介します。

家から正北の正門にかけて職員が畑を作っていました。とにかく自分の家から廊下つたいに殆どのお宅に行け、雨が降ってもぬれずに遊びに行けたのを覚えています。各部屋はふすまで仕切られていたので隣の音がよく聞こえた。縁側が広く廊下で各部屋がつながっており、子供達が「殿中でござん」と言っで遊んでいた。平屋は長屋みたいになっていて、3家族入っていた。元は厩だったのを改装したと聞いた。風呂場も広く五右衛門風呂があった。広い風呂で10畳くらいあった。焚口もあった。風呂は2カ所あった。よく門にぶら下がって遊んでいた。御殿の中庭にさるすべりがあった。

その後、息子の元徳も孫の元昭も、隠居することなく現職で逝去したため、野田御殿は隠居所としては未使用だったそうです。昭和になり、野田御殿は山口県へ売却され、県職員住宅となった後解体されました。

また、敬親は本当に「そうせい公」だったのか?という敬親の人となりや功績についての話もありました。敬親は、島津家や伊達家など数家のみ許されていた参勤交代時の三本槍を許可されたり、没後には正一位の位となったりしています。長府藩・徳山藩・岩国藩・萩藩を養子関係や婚姻関係によって防長の統一も果たした人物でした。

その他にも、毛利家と朝廷の話、幕末期の長州藩の評価や動乱の話などもあり、幅広い内容の講演会となりました。



第8回アートdeおもてなし開催



令和3年11月3日(水祝) 7日(日)、第8回アートdeおもてなしを開催しました。山口県在中のアーティスト6名の方に展示をお願いしました。



西の菜時記

令和4年1月26日発行
発行元:山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会

西の菜時記

令和4年1月26日発行
発行元:山口市菜香亭
指定管理者
特定非営利活動法人
歴史の町山口を甦らせる会